

# 熊本県博物館ネットワークセンターだより 熊本の自然と文化

編集・発行 熊本県博物館ネットワークセンター

2024年3月18日

No. 57

がんばるけん！  
くもとけん！



## イベント情報 (令和6年3月～)

**企画展** 会場：熊本県博物館ネットワークセンター 入場無料

### 第5回企画展「熊本の干潟の生き物」

ムツゴロウ、シオマネキ、クロツラヘラサギなど、熊本の干潟に生息する様々な生き物を剥製や標本、写真などで紹介します。

○開催期間 令和6年2月27日(火)～5月12日(日)

#### 関連企画

##### (1) 展示解説会

【日時】令和6年3月10日(日) 午後1時～午後2時

【会場】熊本県博物館ネットワークセンター 展示室 申込不要

##### (2) 春の渡り鳥観察会

【日時】令和6年4月27日(土) 午前10時～正午

【会場】荒尾干潟(蔵満海岸)(熊本県荒尾市蔵満)

【定員】20人※事前申込制。定員を超えた場合は抽選になります。



ハクセンシオマネキ



ダイシャクシギ

春の渡り鳥観察会のお申込みはこちら



申込期間：令和6年3月25日

～4月14日

## 熊本県博物館ネットワークセンターからのお知らせ

### 熊本県総合博物館ネットワーク・ポータルサイト「熊本どこでもミュージアム」

熊本県総合博物館ネットワーク・ポータルサイト内の「熊本どこでもミュージアム」では、県内のミュージアムが作成した自然や文化の魅力についての紹介や、自宅でできる実験・創作の紹介などの動画コンテンツを「バーチャルミュージアム」、「ミュージアムをのぞいてみよう」、「できた！みつけた！」の3つのコーナーで紹介しています。

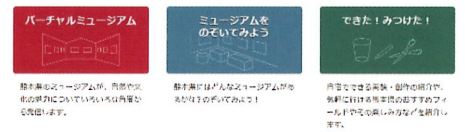
ぜひ、のぞいてみてください！

詳細は下記のURLまたは右のQRコードからどうぞ。

URL:<https://kumamoto-museum.net/kumadoko>



#### 熊本どこでもミュージアム



## 熊本県博物館ネットワークセンターの学習支援活動、展示活動

熊本県博物館ネットワークセンターでは、学習支援活動として学校やPTA活動、子ども会活動などで利用できる「移動体験教室」、学校や教育施設等への動物・植物・地質・歴史・民俗の各分野職員の「講師派遣」を受け付けています。また、展示活動として学校や公民館等での「移動展示」、学校での「学校移動展示用パッケージ」及び、図書館や公民館等での「図書館・公民館等移動展示パッケージ」の運用を行っています。

詳細は当センターのホームページをご覧ください。

<移動体験教室プログラムの一例>古銭レプリカを作ろう・貝殻クラフト

<図書館・公民館等移動展示パッケージの一例>郷土玩具・水辺の昆虫たち





No. 294  
民俗

## 火吹竹

火吹竹は、かまどや火鉢、風呂などで、薪や木炭の火をよく燃やすために風を送る道具です。中の節を抜いた竹筒の先端の節に小さな穴をあけ、反対側から息を吹きこんで穴から強い風をピンポイントで送ることで、種火を大きくしたり、消えかけた火を再び燃え上がらせたりすることができます。ガスや電気が一般に普及していなかった時代には、かまどなどの火のそばに必ず置いてある身近な道具でした。

火吹竹は、これを吹けば感染症にかからない、腫れ物が治る、風難・火難除けになるなど、病や災厄を吹き飛ばす呪術的な力を持っていると考えられていました。熊本県内では、耳のように穴が開いていることから、難聴や耳の病気の治癒祈願に神仏に供えるところがあります。山鹿市鹿北町岩野にある教官坊というお堂は、火吹竹を供えてお参りすると耳の病気、難聴が治るといわれています（図2）。また、益城町寺中のガランサンとよばれる耳の神様は、ほこら祠の中に置いてある火吹竹で耳を2、3回なでると耳の病気などが良くなるといい、お礼に火吹竹を年の数だけ作って供えます。（迫田 久美子）



図1 火吹竹（菊池市）



図2 教官坊に奉納された火吹竹  
(1977年 白石巖撮影)

No. 295  
動物

## ムツゴロウ *Boleophthalmus pectinirostris* (ハゼ科)

ムツゴロウ（図1・2）は、日本では島原湾を含む有明海と八代海の泥干潟のみに生息している、全長15cmほどのハゼ科の魚です。国外では朝鮮半島、中国、台湾に分布しており、日本には対馬海峡が陸続きだった氷期に入ってきたと考えられています（大陸系遺存種）。愛嬌のある姿から干潟のシンボリックな存在となっており、その名は広く知られていますが、その限られた分布から実物を見たことがある人は意外に少ないのではないのでしょうか。また、一般的には有明海でも佐賀県や福岡県に生息しているイメージが強いようで、熊本県にも生息していることはあまり知られていません。

もともと分布が限られていた本種ですが、環境の悪化などに伴い産地や個体数が減少しており、環境省（2020）のレッドリストで絶滅危惧IB類、熊本県（2019）のレッドデータブックで絶滅危惧II類とされています。

図1の標本は、宇城市の八代海沿岸で採集されたものです。本種は八代海産と有明海産との間に遺伝的な差違が認められており、また、八代海における産地はごく限られていることから、より一層の保全への配慮が求められます。壮大な歴史の生き証人でもある本種が、これからも熊本の干潟で見られる事を願ってやみません。（中藪 洋行）

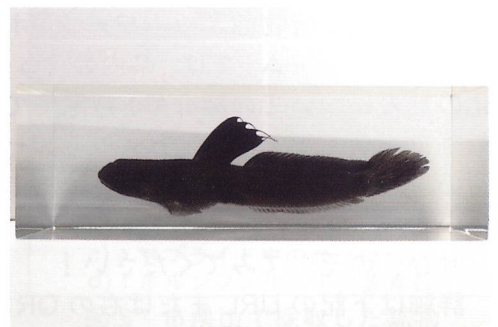


図1 ムツゴロウ標本（宇城市産）



図2 ムツゴロウ生態写真（宇土市）



No. 296  
植物

## ミクリ *Sparganium stoloniferum* (ガマ科)

ミクリの仲間(ミクリ属)は湖沼や水路などに生育する抽水型の水草で、熊本県には4種が分布しています。ミクリの仲間の形態は特徴的です。雄花が集まった雄性頭花と雌花が集まった雌性頭花があり、いずれも球状をしています(図1)。成熟した雌性頭花は複数の果実が集まった集合果となります。その形がイガに包まれた栗に似ていることが、実栗(ミクリ)の名の由来です。



図1 ミクリの球状の頭花  
(江津湖)



図2 ミクリの葉の表と裏  
(江津湖)

た栗に似ていることが、実栗(ミクリ)の名の由来です。果実はバラバラに落ち、水の流れて運ばれます。葉の形も特徴的です。細長い葉の裏側(背側)に縦にはしる稜(張り出し)があり、断面が三角形をしています(図2)。

ミクリは、ミクリ属の中で最も大型の種で、高さ1m程にもなります。水深の浅い環境で水底に根を張り、水上に細長い葉と頭花をつける茎をのびします。図3の標本は、2001年に熊本市で採られたものです。植物体が大きいので、何回も折り曲げて台紙に納めています。球状の頭花や裏面に筋のある細長い葉、地下茎が伸びて子株をつくっている様子などが観察できる、非常に状態の良い標本です(図3)。



図3 ミクリの標本

ミクリ属植物の生育環境は、災害防止や開発、整備などによって減少傾向にあり、ミクリ属植物の多くは絶滅の危機にあるとされています。(前田 哲弥)

No. 297  
歴史

## とうせん 刀銭 (熊本市辛島家資料)

刀銭は古代の中国で使用された、小刀を模した銅銭の一種です。古代中国では紀元前770年以降、当時存在した周王朝の力が衰え、周に従っていた国々は自立を強め覇権を巡って争うようになります。そのような時代のなかで、当時貨幣であった貝殻に替わって、農具を模した布銭や蟻の頭のような形の蟻鼻銭など、青銅製の貨幣が出現し、大量に造られます。刀銭はその一種で、齊や燕、趙の国々で広く使われました。

刀銭は地域ごとに見られる形や大きさの特徴から呼び名が付けられていますが、本資料は刀身と柄に折れがあり、刃先にあたる部分が方形であること、また刀身の部分に漢字の「明」に似た模様があることから「方首刀」(明刀)と呼ばれる種類と考えられます(図1、2)。



図1 全体

図2 刀身の模様

中国大陸の諸国はやがて秦によって統一されますが、秦は貨幣についても、円形の銭に統一を図り、次の漢王朝によって達成されます。それに伴い、様々な銅銭と共に、刀銭もまた姿を消していくこととなります。

なお、この刀銭が、いつ、どのようにして辛島家の收藏品に加わったのかは定かではありません。しかし、熊本市長を務めた辛島知己氏は市長退任後、中国東北部へ移住しており、その期間に手に入れたものかもしれません。(古澤 広大)



No. 298  
地学

## 市房山の石

市房山は球磨郡水上村の南東部、宮崎県との県境にある山です。ここでは、四万十累帯の諸塚層群（中生代白亜紀）と日向層群（新生代古第三紀）の堆積岩に、新生代新第三紀の市房山花こう閃緑岩の岩体が貫入しています。

図1は市房山の写真です。市房山山頂付近は四万十累帯が分布していますが、そのすぐ北（写真左）には市房山花こう閃緑岩の岩体が分布しています。この花こう閃緑岩は斜長石、石英、カリ長石、黒雲母でできた岩石で、よく見ると泥岩や砂岩起源の岩石片（捕獲岩）が交じっています（図2）。市房山花こう閃緑岩は長径約10km、短径約7km、北西-南東方向に伸びた切株状に分布しています。

市房山花こう閃緑岩の周辺約2kmの四万十累帯の堆積岩は、貫入時に熱変成作用を受けています。図3は、ホルンフェルスという熱変成作用でできる硬い岩石です。これは粒子が細かいので、泥岩を起源としていると思われます。市房山周辺には、砂岩を起源とするホルンフェルスや図4のような薄い板が重なった粘板岩なども分布しています。

また、市房山では図5のような鉱物も見られます。市房山花こう閃緑岩を貫くペグマタイト（巨晶花こう岩）やアプライト（半花こう岩）の岩脈には電気石やザクロ石が見られ、ホルンフェルスには堇青石きんせいせきが見られることがあります。

市房山山麓の河原で石を見てみましょう。色とりどりの石や鉱物たちに出会えるかもしれません。（廣田 志乃）



図1 市房山(市房ダムより望む)

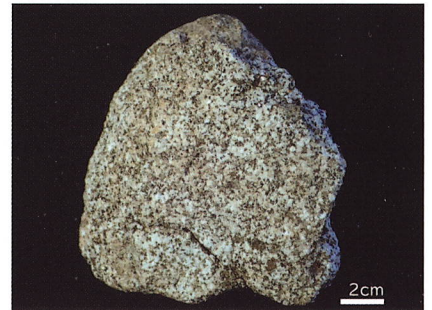


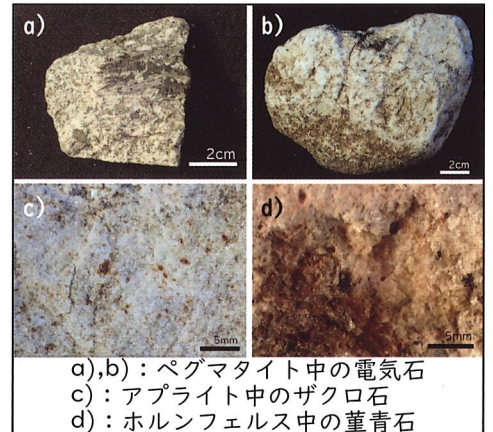
図2 花こう閃緑岩



図3 ホルンフェルス



図4 粘板岩



a),b): ペグマタイト中の電気石  
c): アプライト中のザクロ石  
d): ホルンフェルス中の堇青石

図5 市房山で採取した鉱物

### 熊本県博物館ネットワークセンター

(ISIL JP-2004104)

〒869-0524 宇城市松橋町豊福 1695

TEL: 0964-34-3301 FAX: 0964-34-3302

E-mail: hakubutsuse@pref.kumamoto.lg.jp

HP: <https://kumamoto-museum.net/kmnc/>

【公共交通機関】

○九州産交バス

松橋バスターミナルより宮原経由  
八代産交行き「希望の里入口」下車

○JR

松橋駅より約3km

